

登「昔もまゝ口をよゝ殺せ又扉を變つて出て扉にさるつてさうさう
平「然」意何者」とつておへずなり

大津太の云

前廻へつて今右の御幸の云へた意何者なる處に御座り合ふは
登「御示」つちの御幸の云へた意何者なる處に御座り合ふは
つちの御幸の云へた意何者なる處に御座り合ふは

登「是も申」つて御座り合ふは
つちの御幸の云へた意何者なる處に御座り合ふは
登「是も申」つて御座り合ふは
つちの御幸の云へた意何者なる處に御座り合ふは
登「是も申」つて御座り合ふは
つちの御幸の云へた意何者なる處に御座り合ふは
登「是も申」つて御座り合ふは
つちの御幸の云へた意何者なる處に御座り合ふは

例はたくさんある」

新「二月十八日から私は造機の方より来て呉れとしてその方に廻りま
した怠け者を来て呉れと云つて呼びに來たり又それに仕事を新
らたに爲さしたりはしますまい」

松「折れ合ひが悪つた爲めだらう」

新「造機の掛長からは二度も三度も呼びに來ました折れ合ひの悪い
のを二度も三度も呼びに來まいが」

松「人が足りないからだ餘つての方から廻すのは當り前だ、又よく
働く奴は自分の手元を放したくないのは人情だからネそれだか
らおれは傷を着けたくないと云ふのだ」

井「一萬三千も人の多る會社なら臈首しなくても日々二十人や三十
人は退職するから何も急にやらなくても二ヶ月か三ヶ月位置い
て差支へない筈でせう」

松「永らく居て貰いたい」